

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100067
法人名	株式会社 ライフエイドジャパン
事業所名	グループホーム ライフエイド柏原ミルテ
所在地	福岡県福岡市南区柏原一丁目2番4号
自己評価作成日	平成27年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成27年12月16日	評価結果確定日	平成28年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. アットホームな雰囲気、スタッフは入居者様や御家族と信頼関係を築ける様心がけています。</p> <p>2. 医療との連携を図り入居者様とその御家族の意思を尊重し最期まで支援して行きます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の近くには小学校や地域包括支援センター、交番があり、安心して生活できる環境となっている。建物は、1階がグループホーム、2階から5階が有料老人ホームで、行事などを合同で行い、利用者、職員ともに交流を図っている。職員の異動があっても顔見知りでもあるため、利用者は混乱することなく過ごすことができている。外出行事や運営推進会議、家族会などには必ず家族の参加もあり良好な信頼関係が築けている。事業所はアットホームな雰囲気職員も生き生きと勤務しており、穏やかな時間が過ごせる場所となっている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践につなげている。	地域密着型となり4年前に全職員で考えた「地域との交流を図り安心して生活できる環境づくりを目指します」という理念と3つの目標を作っている。毎日昼礼時に唱和し、常に意識しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流は出来ていないが、行事等があった時は参加している。又、町内会長より組長の依頼があり12月より受任し、毎月の定例会に参加する。	近隣のJAの催し物やバザー、小学校のふれあい祭りや運動会に参加している。地域からの要請で車椅子を貸すなど、できる限り協力している。地域の方々からも事業所に対しての理解は頂けており、事業所の行事にも参加してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解や支援の方法の周知の為、スタッフや地域の御家族に対して認知症サポーター養成講座をホームで開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービスの実践や状況を報告している。	利用者、家族、町内会長、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員が参加し、現状報告や情報提供を行っている。また、毎回テーマを決め、地域の方にも分かりやすい内容で勉強会を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	近くに包括支援センターがあり色々な情報を頂いたり、離設される方への協力や地域で生活されている方の相談を受けたり情報を提供している。	地域包括支援センターとは日頃から相談したり、相談を受けたりと連携が取れている。市町村の担当者へは運営推進会議への参加案内を郵送しているが参加には至らず事業所の取り組みが伝えきれていない。	相談や案内送付などは、できるだけ市町村の窓口へ行き、顔見知りの関係を作ることで、事業所の取り組みなどを知ってもらえる関係作りに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないが建物の構造上、やむをえないので御家族の同意を得ている。	有料老人ホームと共同の玄関であるため、利用者の安全確保、不審者の侵入予防のためにも、家族の同意の元やむをえず施錠している。年1回外部研修に参加し、伝達講習を行って全職員に周知し、身体拘束をしないケアを日々実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は高齢者虐待防止法について研修会に参加し防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について問い合わせ質問あればパンフレットを見ながら説明することが出来る。ホームでは現状1名活用している。権利擁護に関する研修にはスタッフに参加させている。	入居後から地域包括支援センターへ相談して成年後見制度の利用手続きを行い、現在1名が利用中である。事業所にはパンフレットが常備されている。年1回は外部研修に参加し、利用者の状況に応じて適切な制度を活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至る前に見学や説明を行っており、理解・納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より御家族の方とコミュニケーションを図り信頼関係を築く様に努め、意見・要望も言って頂くようにしている。またアンケート調査を行い御家族の要望を受け、日々のレクリエーションを活性化させている。	事業所入口に意見箱を設置し、家族訪問時にも意見や要望を直接聞いている。また年2回家族アンケートを行っている。家族からのレクリエーションを充実させて欲しいという要望に応え、現在では家族にも参加してもらい一緒に楽しめるように取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務やミーティングで職員の意見を聞いている。主任会においても意見を交換している。	日頃の業務の中で職員の意見を聞くなど、話しやすい雰囲気となっている。出された意見を月2回開催の主任会で検討し、運営に生かしている。備品の購入や職員の休みの希望などもしっかりと反映・配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	各職員が働きやすい環境にし、研修会にも参加させ向上心やスキルアップに努めている。また、職員の自己評価を毎年3回行い能力評価をしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	研修参加や資格取得など配慮し能力を発揮して生き生きと勤務できている。採用は資格・経験・年齢・性別問わず採用している。職員の自己実現の為に資格取得を勧めている。	男性3名、女性5名の職員で30代から60代と年齢層も広く勤務している。他職種からの未経験者も採用しており、現在、資格取得に向けた支援も行っている。職員の入れ替わりも少なく、楽しく生き生きと勤務でき、働きやすい職場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者・職員は高齢者虐待防止法について研修会に参加し防止に努めている。入居者の方への人権やプライバシー、尊厳、身体拘束について研修や日頃の業務を振り返り見直しを行っている。	年1回の研修に参加している。法人内でも接遇委員会を作り、毎月目標を定め、月1回自己評価を行っている。日々の業務の中でも、声かけなど職員間で注意し合っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者・管理者は施設内外での研修を受ける機会を提供している。資格取得に関してもコミュニケーションをとりながら情報提供をしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者・管理者は同業者と交流する機会があるが職員は同系列の事業所とは相互交流や、勉強会を開催しサービスの質の向上への取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に安心して生活して頂けるように不安なこと、要望があれば耳を傾けて支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安なこと、要望などを言いやすいように信頼関係を築くように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が今後の方向性を見極めながら他職種・関係機関と連携を取り、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は暮らしを共にする者同士の関係を築き、安心して寄り添いながら生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最低でも週に1回はご家族が面会に来られるので随時近況報告を行っている。また、午後のレクリエーションはご家族も一緒に参加していただいている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、ご友人など尋ねて来られたらゆっくりと過ごしていただける場を提供（一緒にお茶を飲んでいただく等）している。	家族の協力のもと、馴染みの場所へ出かけたり、退去された利用者のところへ会いに出かけたりするなどの支援をしている。また、友人や仕事仲間、教え子の訪問もあり、部屋やホールでゆっくり話ができるよう配慮している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体的にも重度な方が多く意思疎通や理解が困難であってもスタッフが介入し入居者が笑顔で過ごせる関係作りに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えなどあった時は他施設入居後面会等に行かせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その時々で本人の希望が聞かれたときには出来る限り検討している。また、嫌な事や拒否がある時は間を置くなど意に沿える様に支援している。	重度化しており意向の確認が困難な利用者もいるが、家族や昔の記録から情報収集し、意向の把握に努めている。家族からの情報により手芸を取り入れたことで、言葉が出るようになったり落ち着いたりと変化が見られる利用者もいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用時の情報収集を行っている。また、入居者様やご家族との会話の中での聞き取りも行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の体調などをみながら現状維持出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らす為に、本人の思いがなかなか聞き取れないので担当者会議やカンファレンス等によりスタッフ・ご家族の意見を聞き介護計画を作成している。	日々の状態を確認しながらモニタリングを行っている。毎月のカンファレンスで意見を出し合い、現状に即した介護計画を作成し、状態にあったケア方法なども検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の気付きや思いを介護記録に記入し、毎日スタッフ間に申し送りをして情報を共有している。その都度改善したことは、介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度状況の変化に対応しスタッフ間で情報を共有し柔軟な支援やサービスを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等に町内会・民生委員・包括等に参加して頂きホームの現状を把握もらい、ホームも地域ケア会議に参加し地域の資源として把握した。又、行事に地域ボランティアを活用し、入居者様は楽しまれている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院がかかりつけ医と納得されている。受診が必要と思われたときは、御家族に相談し受診している。又、緊急の時は受診後報告している。	提携病院は24時間連絡ができ、連携も充分取れている。皮膚科などの専門医にも往診を依頼し、適切な医療が安心して受けられるようになっている。緊急時には家族からの協力も得つつ、受診支援を行っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での気づきを看護師に報告し相談している。指示を仰ぎ、受診や主治医との連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退所時、情報交換を行っている。医療連携を取りながら早期に退院できるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族、スタッフ、本人を交えてインフォームドコンセントを行っている。事業所での看取りを含めた今後の方針を決め、スタッフ間で共有している。	今までに2名の看取りを行っており、現在1名の利用者が看取りを希望されている。入居時には必ず説明し、必要に応じて看取りの説明や意向確認を再度行い、利用者、家族、主治医や職員で方針を共有している。定期的に研修を行い、常に支援できるよう体制を整えている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度、急変時に備えて心肺蘇生法やAEDの使用方法等の訓練や勉強会を開いている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、施設内での避難訓練を実施し、全職員が非常時に速やかに利用者を安全な場所へ誘導できるようにしている。	上階の有料老人ホームと合同で夜間想定での避難訓練を実施している。事業所裏にある同法人のグループホームや敷地内にある提携病院の寮にも協力を求める予定となっている。職員は避難先や手順を充分把握している。水や米類など非常食もしっかりと準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の言動や行動を否定せず、一人ひとりの人格に合わせた声かけや対応を心がけている。	利用者の言動や行動に合わせて個別に支援を行っている。特にトイレ誘導の際の声かけや誘導方法には、充分注意を払っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や自分の思いを表出することが出来ない入居者様も多いが日々の表情や態度から察知し、支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう心がけ、入居者様一人ひとりのペースや希望に柔軟に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の意向に沿うよう2ヶ月に1回の訪問美容や訪問美容教室を利用し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに合った食事形態を工夫し提供している。重度化しており食事の準備等は困難な為、行っていない。	施設共有の厨房で一括調理しているが、朝食は1階で職員が調理している。食べやすい様におにぎりにしたたり、食の細かい利用者には家族から好きなものを提供してもらったり、個々に応じてしっかり食べられるよう工夫をしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合った食事形態を支援している。また、毎日生活パターンシートに記入しそれぞれの摂取量を把握出来るようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るかぎり自分で出来る入居者様はしていただくよう声かけで支援し出来ない方、困難な方はスタッフが行っている。また、定期的に訪問歯科を利用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の生活リズムに添ってトイレ誘導し、オムツの方は排泄パターンを把握しパッド交換を行っている。オムツ、パッドの使用量を減らすよう工夫・努力をしている。	排泄チェック表にてリズムやパターンを把握し、オムツ使用の利用者も日中はトイレやポータブルトイレへ誘導して自立に向けて支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を把握し水分補給にも努めている。高齢・重度の方が多く、運動等の働きかけが困難な為、薬剤でのコントロール及び、腹部マッサージ等で対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望には添えないが、身体状況に応じて対応している。	週2回入浴日を設定している。ゆっくり時間をかけて入浴できるよう、1日に約3名ずつ支援している。安全に入浴できるようにリクライニングシャワーチェアも用意し、希望時や身体状況によっては寝たまま入れる機械浴も行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や心身の状態に応じて気持ちよく眠れるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用している薬の目的を把握している。症状の変化がある時や分からない時は主治医へ報告、医療との連携をとり服薬の支援を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化している為、今まで出来ていた役割が出来なくなっている。嗜好品や楽しみごと等は御家族の協力を頂きながら支援を行い、また毎日1時間程度レクリエーションで体操・歌等を行い、楽しく過ごせるように支援を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の方が殆どではあるが、年に2～3回ほど外出支援を行っている。(もーもーランドへの外食、近くの小学校への花見等)また、御家族にも呼びかけし、一緒に出かけられるように支援している。	天候が良い日は近所を散策したり裏庭でレクリエーションを行ったりしている。また、季節の花々を見にドライブにも出かけている。外出行事の際には家族の協力も得ながら支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度の為自分の意思で買物をされる方はいらっしゃらない。金銭管理はホームで行っている。1名のみ金銭管理されているが、使われる事は無い。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが、季節折々の絵葉書が届いている。読めない為、スタッフが読み聞いていただいている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が落ち着いて過ごせるよう、音の大きさや光の強さに配慮している。季節感を感じて頂けるよう毎月季節に合った掲示物を飾るよう工夫している。	共有空間は広さも充分で明るさもあり、季節を感じられるような飾り付けがされている。室温にも注意が払われており、居心地よく過ごせるようになっている。掲示板には事業所の通信や職員の目標などが掲示されている。	掲示板は利用者が日常過ごす共有空間にあるため、利用者、家族、来客者が思い出話をしたり見て楽しめるよう、外出時の写真や行事の写真などを飾るなど、より掲示板を活用することに期待したい。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士話せるよう席の工夫をしている。一人で過ごしたい時は、居室で過ごしたりソファに腰掛けたりしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みのある物を持ってきていただき、居心地良く過ごせるような環境づくりをしている。	ベッドは個々の状態や好みに合わせて配置され、使い慣れたタンスやソファも持ち込まれている。その他、家族との写真や手作りの手芸作品を飾ったり、仏壇も置いたり落ち着いた居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー、手摺等を設置、自立した生活を送れるような工夫をしている。また、居室内での移動時安全に移動できるよう家具なえなどの環境整備をしている。		